

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 エンジョイリズム		
○保護者評価実施期間	令和7年9月20日 ~ 令和7年10月14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和7年9月20日 ~ 令和7年10月14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	聞く耳を作るための音楽プログラムを資格を持ったプロの音楽家が毎日企画指導することができる	発語を音楽で行う発語リズム資格、リトミック上級資格を持ったプロの音楽家が立案、指導している聞く耳を育てるための音楽タイムを毎日一定時間行うことで、子どもたちが楽しんで参加していく内に音を聞くことが無理なくできるようになり、指示を聞けるようになったり、言葉を正しく聞き復唱することができるようになり言語獲得することができた。	スキルを持った職員でチームを組み、教材開発や指導方法を検討し、全職員がいつでも指導が行えるように研修や打ち合わせを増やしていく。
2	5領域の支援をバランスよく取り入れた支援ができています	5領域に分けて書かれた個別支援計画書を支援する際に毎日職員が必ず確認して、どのように支援できたかを振り返りながらサービス提供記録を丁寧に書き父兄に即日開示していることは父兄からの評価も非常に高い	職員間で差が生じないように毎日きめ細かくチェックする態勢が必要。常に新しい知識を得られるようにセミナーへの参加も積極的に行い得た知識を職員間で共有する。
3	職員間での情報共有ができており、父兄に提供する情報量が早く多い	児童の心配事を職員全員で共有する研修を行ったり、有効な支援方法、避けたい支援方法を全員で共有できている。日々の支援のフィードバックや丁寧なサービス提供記録を即日開示している。	様々な支援方法についての職員研修の機会を今後増やしていく。 今の状況と同じく丁寧な情報共有、情報開示ができることを維持していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアルやBCPは公表しているが従業員やご父兄に内容が理解して頂けていない。	日々のフィードバックの時間ではご父兄に説明する時間は取れない。 従業員についても日々の業務に追われて説明する時間が取れないが避難訓練、感染症対策研修などの機会に内容に触れるようにしている。	イベントやペアレントトレーニングの時に時間を確保し、ご父兄に直接説明し、ご質問を受ける機会を設けることが必要。
2	人員基準をギリギリ守っているが人員不足で現場で動ける従業員の確保が難しい	非常勤職員については理解度が低く、現場で動くことができないことも多いためできるだけ保育経験・福祉経験がある職員を確保する。常勤職員については事業所内で育成して現場での知識を十分つけてから職務につくことを目指す。	信用をできるルートからの紹介や内部での育成に力を入れていれる。
3	ペアレントトレーニングなど保護者向けの研修、就学をひかえた児童を持つご父兄への支援があまりできていない。	人員不足のため、ご父兄からの要望はあるが個々に対応させて頂くのが精一杯の状態だった。また開催しても限られた少数のご父兄しか参加して頂けないことですべてのご父兄に情報提供が十分にできなかった。	研修や父兄会を開催する時間を確保していくよう努力し、ご父兄や従業員からのご意見をお聴きする。